
俺の平和を返せ！！

篠崎 海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の平和を返せ！！

【Nコード】

N1226BA

【作者名】

篠崎 海斗

【あらすじ】

戦後、人々は平和ボケという状態に陥ってしまった。

そんな中、周りの変わった人々によって、平和を奪われてしまった残念な少年の残念な少年による残念な小念のためのコメディ小説

プロローグ

「今日も暇だあ。平和ってやだなあ。戦争じみたことがしたい」

「俺も同感だ。戦争っていいよね。スリルがあつて、勉強なんてしなくていいし、学校だつて行かなくてもいい。社会が混乱している状態だから、法律になんか従わなくていいもんねえ」

「平和って不便だな」

俺は通学中にそういう会話を聞いた。

社会の授業で、先生が平和について語っていた。

「君たち、平和ボケと言う言葉を知っているかね？我々は”平和”というものを求めすぎていて、ゆとりがついてしまっている。ゆとりがついたせいで、本来あるべきのものが失われたり、物が粗末に扱われたり、命の大切さを知らない人たちが現れてきている。”平和”とはいいこととよく言われるが、本当にそうだろうか？むしろ”平和”を味わいすぎたために、我々は、視野が狭くなっていつているのではないか？私は”平和”というものは、一種の薬物だと考える。一度中毒になってしまえば、人間をどん底まで陥れる危険なものだ。いらぬ。平和なんてこの世にいらぬ！！」

(こいつらは何を言っているんだ？平和が一番だ。そんなに平和がいらぬと言うのなら、頼むから……………)

「頼むから俺の平和を返せ！！」

プロローグ（後書き）

作成中の小説にギャグを載せることをあきらめたので、こっちに載せませす。コメディ―小説は、前々から書きたかったので、想像以上のできになってくれればうれしいです。

あまり面白くないかもしれません。そしてまだ書き始めて間もないので、文章力とかも未熟ですが、頑張ります。期待しててください。

今まで偉人と呼べる人が汗水たらして発見して来た数に関する教科だ。名づけて

俺の名前は、加治湊^{かじみなと}。平和な日常を取り戻したい高校二年生だ。なぜだか知らないが、俺の周りにはへんなヤツがいっぱいいる。

その日は、二年生になりたての日だった。

「おーい、湊ー！！」

へんなヤツの一人が来た。彼の名前は、神無月健太^{かんなつきけんた}、中学からの中だが、こいつは本当にバカだ。

「社会の先生久しぶりにまじめに語っていたな。授業つぶれてうれしーぜ」

こいつは一見すると、平凡な高校生のような言動をするのだが、かなりのバカである

「お前頭いいじゃん。だからさあ教えてもらいたい問題があるんだけどいいかな？」

「今日は何についてだい？」

「科目は、今まで偉人と呼べる人が汗水たらして発見して来た数に関する教科だ。名づけて……」

「算数ね。何が分からないんだい？定規の使い方かい？測りたい長さに会わせて、目盛りを読むだけ。簡単だろ？他に直線を引くという応用もできるから凄く便利だ。一度つかってみるといいよ」

「待て待て待て。お前、長年付き合っていて俺のことをぜんぜん知

らないんだな？俺が知りたいのは、三角定規と言う、定規が派生したものについてだ。アレは先が尖っていて、危ないけど、一体何に使うんだ？」

重ね重ねですまないがもう一度言おう。こいつはかなりのバカである。

「そうかあ。定規のことを知っていたのか。すまない。勘違いしていたよ。三角定規と言うものはね、先の角度が、30度、60度、90度というやつと、45度、90度、45度というやつとの2種類があつて、長さを測るということ意外に、角度を測ると言うこともできる便利な道具だよ。」

「便利な道具！？だったらそれは、あの青い狸のポケットから出てきたのか？」

「そうだね。また、少し工夫をすることで、平行線という線が引けるようになるんだよ」

「わかった。ありがとう。そんな使い方があつたなんて知らなかったよ。これでテストで点が取れる。ヤッホーイ！！！」

そういうと彼は、帰って行った。

「さてと、バカの処理も終わったし、そろそろ移動するか」次の授業は教室を変えなければならなかった。教室をでるということは、俺にとって命がけなことである。なぜなら……

外の世界には、他のクラスの刺客たちが待ち構えているからである。

教室を出た瞬間、俺の鳩尾みぞおちに衝撃が走った。ボールが当たったのである。

廊下で、紙のボールを使って野球やサッカー、アイスホッケーをするというのは聞いたことがあるが、まさか、廊下で砲丸投げとは……しかも本物の砲丸……まったく、この学園は未知な出来事であふれている。

「こいつらは一体何で飛距離を測っているんだ？」俺は床を見た。するとそこには、おびただしい数の三角定規が置いてあった。

「オッス！オラ湊！うっひょー、世の中にはいつぺえ可笑しい馬鹿がいるなあ。わくわくすっぞー！」

こうして俺の、高校二年生の生活は始まった。

今まで偉人と呼べる人が汗水たらして発見して来た数に関する教科だ。名づけて
とりあえず出だしです。

次の話で登場人物をいっぱい出して面白くしていることと想っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1226ba/>

俺の平和を返せ！！

2012年1月3日01時52分発行